

母親の生育歴と母子相互作用

島田 信宏 (北里大学病院)

島袋 香子, 赤嶺 容子, 野村 紀子 (北里大学病院)

はじめに

前回の調査において、分娩直後の母親とその児との初回対面時に、自発的に接触を求める母親群と、接触を求めない母親群の、社会的背景との関連について調査を行った。

今回は、特に母親の生育歴との関係について調査を行った。

調査項目は表1のごとく、1.自分の母親へのイメージ、2.栄養方法、3.主な養育者、4.同胞数、5.兄弟構成、6.子供への世話の経験、7.子供へのイメージ、8.初回対面時の接触の有無、9.初回授乳時の母親の表情、10.初回授乳時の接触時間の10項目とした。

調査対象および方法

昭和59年3月～12月までに当院で分娩した婦人を対象とし、面接方法および観察による調査を行なった。調査人数は、初産婦283名、経産婦317名であり、初回対面時のtouchingの有無にわけ比較検討を行なった。初回対面時にtouchingを行った婦人は441名(74%)であり、touchingを行なわなかった婦人は159名(26%)であった。

結 果

① 母親に対するイメージについてみると、初産婦のtouchingした人でやさしいと答えた人は94名(47%)、普通と答えた人は81名(40%)、きびしいと答えた人27名(13%)であった。

touchingしなかった人においては、やさしいと答えた人29名(40%)、普通と答えた人36名(49%)、きびしいと答えた人8名(11%)であり、touchingした人に母親とやさしいイメージした人が多く、有意に差がみられた。

経産婦における結果は、表2のごとく両群に差はみられなかった。

② 栄養方法別にtouchingの有無を比較した結果は表3のごとく、各栄養方法とも差がなくtouching行動との関連性はみられなかった。しかし、栄養方法不明と答えた人で、touchingした人は初産婦4名(56%)、経産婦3名(25%)、touchingしなかった人は初産婦3名(44%)、経産婦9名(75%)であり、自分が育てられた栄養方法を知っている各群に比べtouchingしない人が多く、有意に差がみられた。

③ 養育者別に比較した結果は、表4のごとくであり、関連性はみられなかった。

④ 同胞数についてみると一人っ子において、touchingした人は初産婦19名(91%)、経産婦15名(79%)、touchingしなかった人は初産婦2名(9%)、経産婦4名(21%)であり、同胞数一人の人でtouchingした人初産婦96名(76%)、経産婦90名(80%)、touchingしなかった人初産婦30名(24%)、経産婦22名(20%)であった。同胞数二人の人でtouchingした人初産婦51名(71%)、経産婦56名(64%)、touchingしなかった人初産婦21名(29%)、経産婦31名(36%)であり、三人の人では、touchingした人初産婦24名(56%)、経産婦34名(87%)、touchingしなかった人初産婦19名(44%)、経産婦5名(13%)であった。

touchingした母親は、一人っ子および同胞数一人、すなわち二人兄弟の母親に多いという結果であった。また、兄弟の数が多くなるにつれ、touchingした母親の数の低下を示した。また、一人っ子と同胞数二人以上、および同胞数一人と二人において有意に差がみられた(表5)。

⑤ 本人の姉妹の中での位置で比較した結果は表6のごとくであり関連性はみられなかった。

⑥ 分娩前子供に接触した経験のある人で、touchingした人は169名(75%)、しなかった人57名(25%)であり、経験のない人においてはtouchingした人27名(73%)、しなかった人102名(27%)であったが、両

群には差はみられなかった。これは、初産婦のみにおいても同様の結果であった(表7)。

⑦ 子供へのイメージにおいて、好きと答えた人で touching した人 380 名 (77%), しなかった人 115 名 (23%), あまり好きでないと答えた人で touching した人 58 名 (59%), しなかった人 41 名 (41%), 嫌いと答えた人で touching した人 3 名 (50%), しなかった人 3 名 (50%) であった。好きと答えた群と嫌いあるいは、あまり好きでないと答えた群とにおいて、有意に差がみられ、子供が好きと答えた母親に、touching 行動が多いという結果がみられた(表8)。

⑧ 授乳時の母親の表情を touching の有無により比較を行った結果は表9のごとくであり、特に関連性はみられなかった。

⑨ 初回授乳時の接触時間を母親が授乳終了後おむつ替えなどの処置や児と接触している平均時間10分以内と、それ以上にわけて、touching の有無を比較してみた。初産婦においては、接触時間10分以内が多く、touching の有無に差はみられなかった。経産婦においては touching した人のうち、95名(41%)が10分以上接触しており、touching しなかった人31名(37%)より多い結果であったが、有意差はみられなかった(表10)。

考 察

touching した人は、母親に対してやさしいというイメージをもつ初産婦に多いという結果であった。イメージとは、個人によって鮮明さに差異があり、母親というものを経験していない初産婦にとっての母親像は、自分の母親をイメージすることが、より強いと考える。母親に感じるやさしさは、温厚、情が深いといった感覚であり、自分で抱きしめられたという記憶とあわせて、touching 行動に出る人が、多いのではないかと考える。

また、touching しなかった母親は、自分の栄養方法が不明者に多いという結果であった。栄養方法不明と答えた人は、すべて実母に育てられており、環境因子として情報を得る機会を阻害された人はいなかった。よってこれは、自分の生育歴に対する関心の低さを示しており、情報提供者として優れた母親をもっていなかったと考えられる。すなわち、母親からの care を十分に受けておらず、アタッチメントの形成が、十分に行なわれていなかったと考える。自分の栄養方法を知っていた人が、不明者より、よりアタッチメントの

形成がなされていると考えるならば、touching 行動を行った人は、より安定したアタッチメントのあった人であり、意識せずに自分の子供に対して、分娩直後から触覚を介しての第一次的相互作用を始めているといえるのではないかと考えられる。したがって、同胞数が多くなるに従って touching 行動を起こした人が減少するのは、いかにアタッチメントを受ける機会にめぐまれていたかの差によるものではないかと考える。

次に touching した母親の多くは、子供を好きと答えているが、これは、一般的に予測される結果となった。また嫌いと答えた初産婦が2名あり、2名とも touching を行っていない。

子供を好きか嫌いかということが、touching 行動に大きな影響を及ぼしていることから、その内容分析を今後行っていく必要があると考える。

児との接触時間の表情は、touching した人もしなかった人も差はみられなかった。これは、母親側の因子とともに児からの刺激により変化するために差異がみられなかったのではないかと考える。今回は、児の授乳時の表情などとあわせて調査は行なっていないため母親の変化については、今後調査を行なっていきたい。

結 論

- 1) touching した者は母親に対してやさしいというイメージをもつ初産婦に多い。
- 2) touching しなかった母親は自分の栄養方法が不明な者に多い。
- 3) touching した母親は、一人っ子、二人兄弟に多く、同胞が多くなるに従って減少する。
- 4) touching した母親の多くは子供が好きと答えている。
- 5) 児との接触の表情には両群間に差はみられない。

おわりに

今回生育歴を調査することにより、初回対面時に touching を行なう母親と、touching を行なわない母親の背景について、若干の私見を得ることができた。前回の調査において、22%の母親が touching 行動を起こしておらず、今回の調査においても26%の母親が touching 行動を起こしていない。初回対面時の touching の有無が、今後児のアタッチメント形成に影響を及ぼすのではないかと考えることから、今後その因子解明のための調査を続けていきたいと考える。

文 献

- 1) Ashley, M.: タッチング, 平凡社, 1981.
 2) John, B. (黒田実郎訳): 母子関係の理論, 岩崎学術出版社, 1981.
 3) Marshall, H. H. Klaus, M. D (竹内徹, 他訳)

母と子のきずな—母子関係の原点を探る, 医学書院, 1979.

- 4) Brazelton, T. B. (小林登訳): 親と子のきずな, 医歯薬出版, 1983.
 5) 母子相互作用, 周産期医学, 13 (12), 1983.

表 1

(母子相互作用研究)

調 査 表 (2)

月 日
 初産婦 経産婦

調 査 内 容

(やさしい) 5 4 3 2 1 (きびしい)

1. 貴方の母親像
2. 貴方はどんな栄養法によって育てられましたか。
 ① 母乳 ② ミルク ③ 混合 ④ 不明
3. 主に誰れに育てられましたか。
 ① 実母 ② 養母 ③ 祖母 ④ その他()
4. 同胞はいますか。
 ① 1人 ② 2人 ③ 3人 ④ 4人 ⑤ その他()
5. 貴方は
 ① 長女 ② 次女 ③ 三次 ④ 未子
6. 自分の子供が生まれる前に、子供の世話をした事がありますか。
 ① ある ② ない
7. 子供は好きですか。
 ① 好き ② あまり好きではない ④ 嫌い
8. 初回対面時(分娩直後)に手を出して子供にふれようとしたか。
 ① はい ② いいえ
9. 初回授乳時の母親の言動
 ① 語りかけながら ③ 無言
 ② 微笑ながら ④ 無表情で機械的
10. 初回授乳終了後、何分抱いていたか。
 ① 10分以内 ② 10分以上

表2 母親に対するイメージ

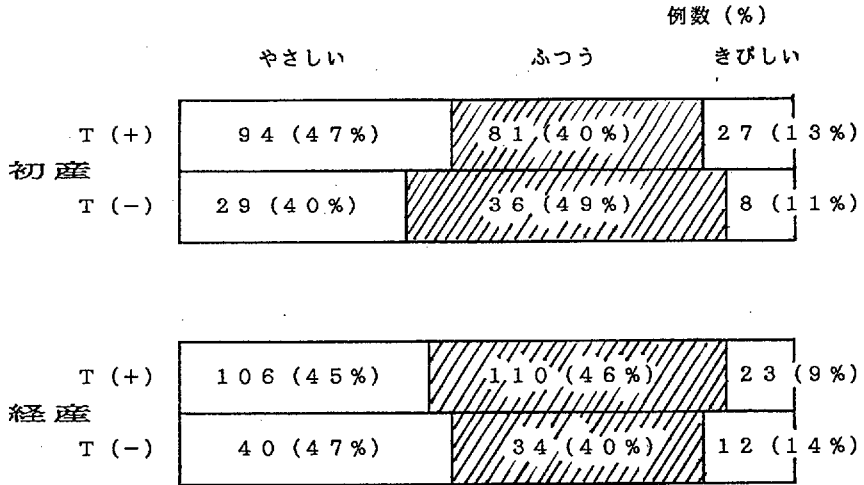


表3 栄養方法

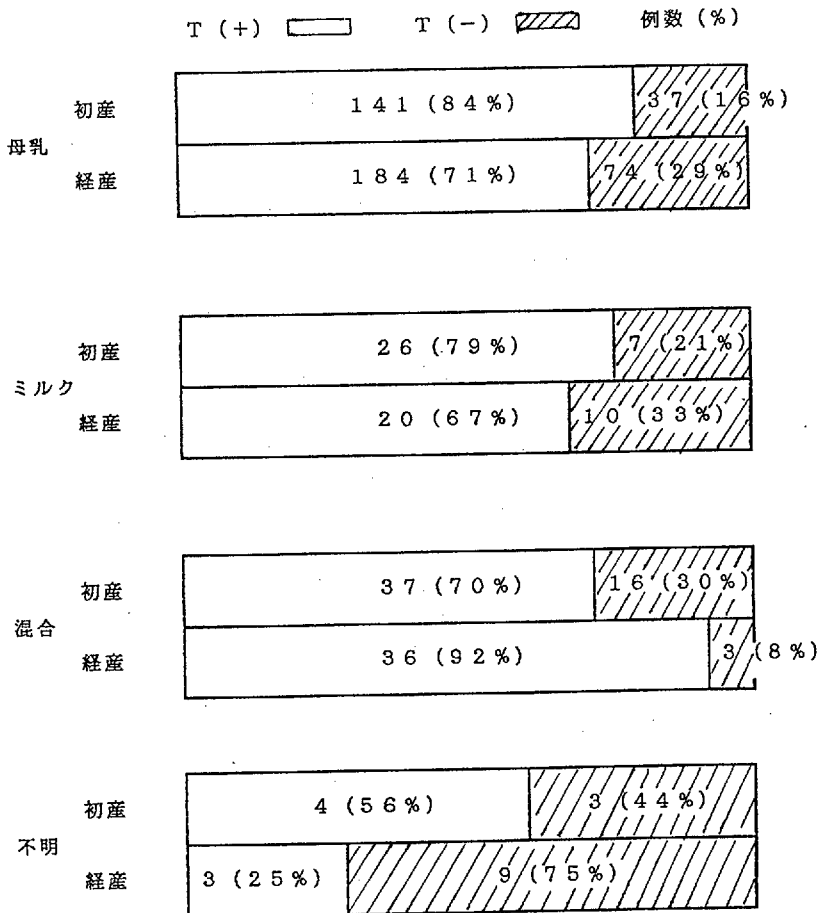


表4 養育者

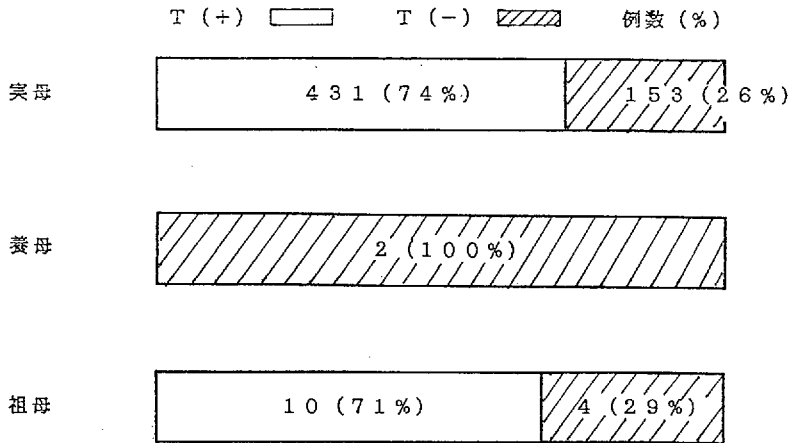
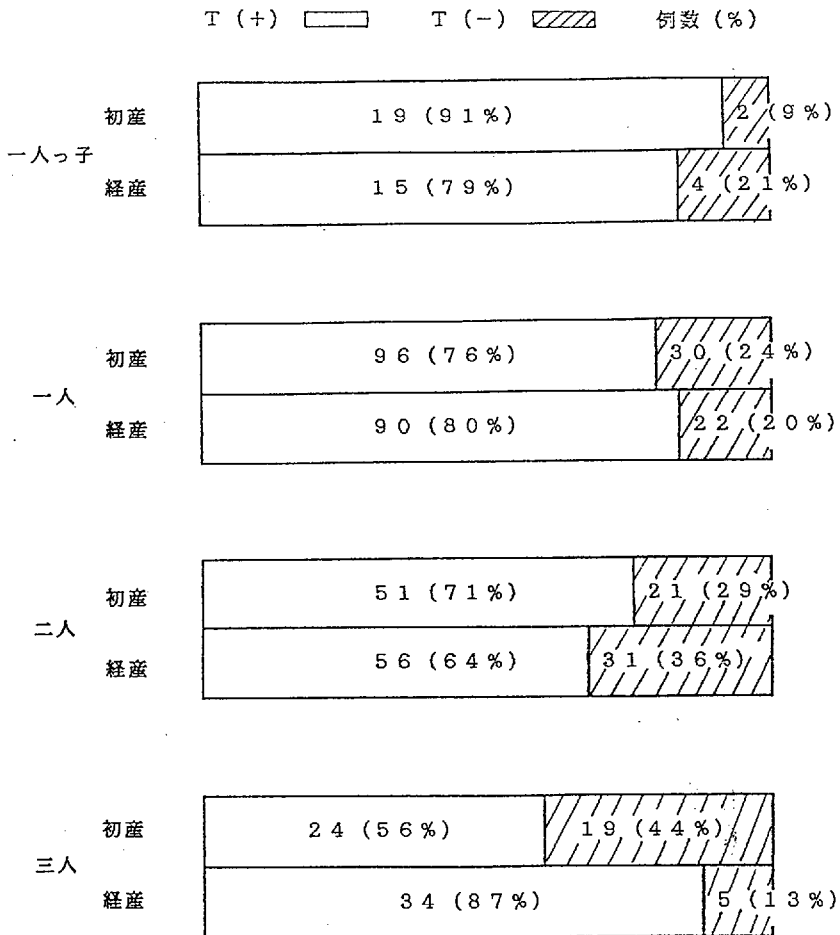


表5 同胞数



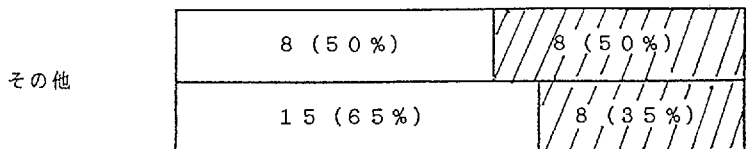


表6 姉妹の位置

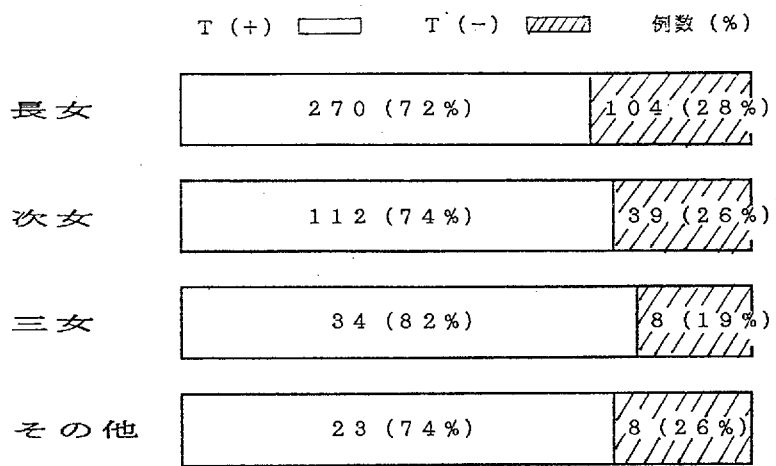


表7 子供に接した事の有無

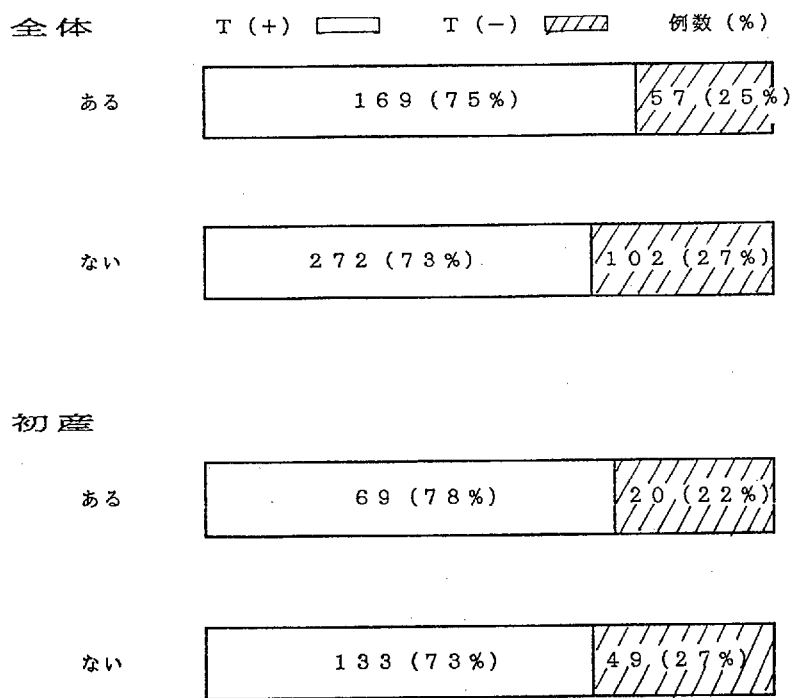


表8 子供の好き嫌い

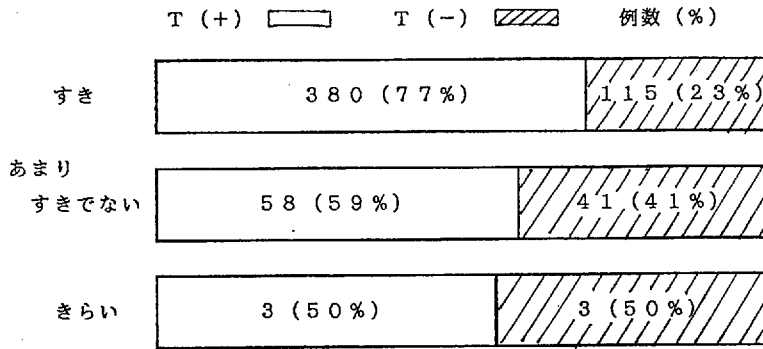


表9 授乳時の表情

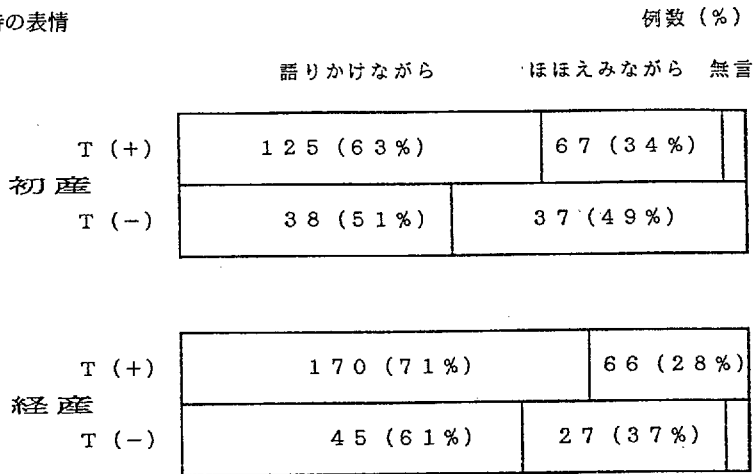
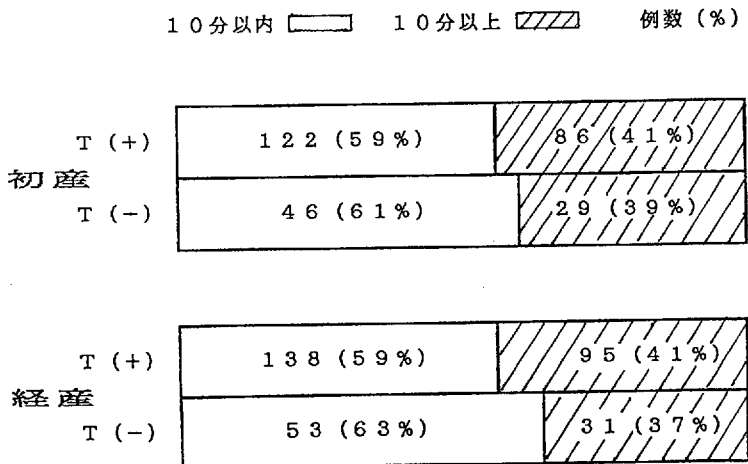
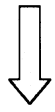
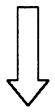


表10 接触時間





検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



はじめに

前回の調査において、分娩直後の母親とその児との初回対面時に、自発的に接触を求める母親群と、接触を求めない母親群の、社会的背景との関連について調査を行った。

今回は、特に母親の生育歴との関係について調査を行った。

調査項目は表 1 のごとく、1.自分の母親へのイメージ、2.栄養方法、3.主な養育者、4 同胞数、5.兄弟構成、6.子供の世話の経験、7.子供へのイメージ、8 初回対面時の接触の有無、9.初回授乳時の母親の表情、10 初回授乳時の接触時間の 10 項目とした。